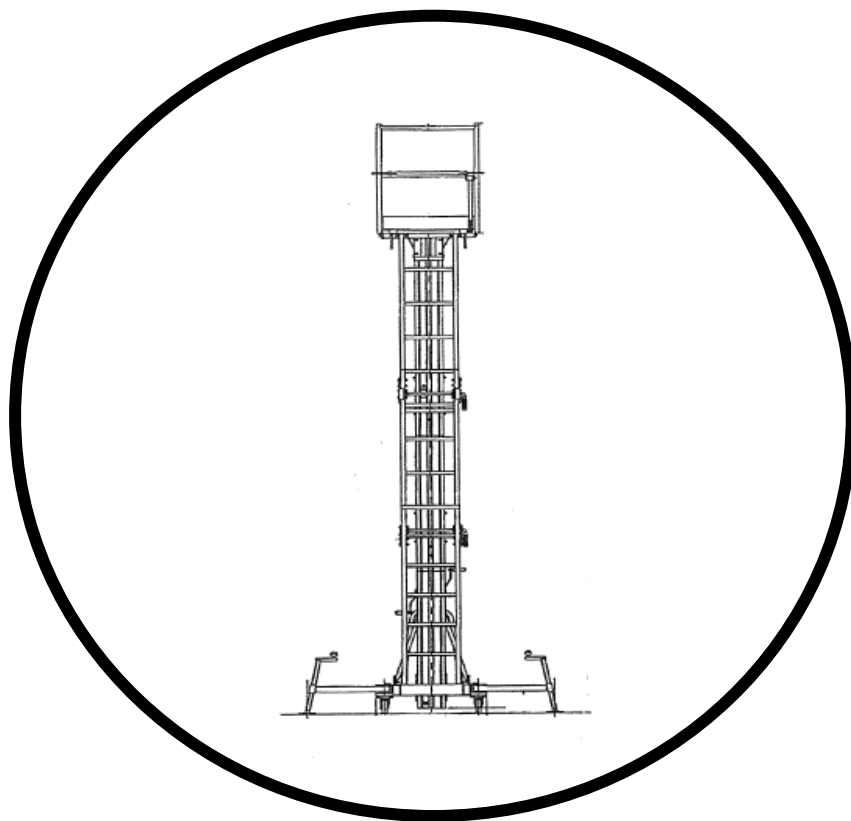


# W L 1 5

## 取扱説明書



エイハン・ジャパン株式会社



## 重要！

---

- ✓ 本機を安全に操作・メンテナンスするために、運転をする方はこの取扱説明書をよく読んで理解し、指示に従ってください。
- ✓ 訓練を受け操作方法や安全確保について十分な知識があると認定された方のみ本機の操作・メンテナンスを行うことができます。
- ✓ この取扱説明書は常に機械に常備してください。

## 目次

---

<b>A. 安全規則.....</b>	<b>4</b>
使用に不適な環境 .....	4
本機の使用にあたっての留意すべき危険性 .....	5
<b>B. 機械の仕様 .....</b>	<b>9</b>
<b>C. 機械各部の名称 .....</b>	<b>10</b>
<b>D. 作業場所の点検 .....</b>	<b>11</b>
<b>E. 始業前の点検.....</b>	<b>12</b>
<b>F. リフトの設置、運転方法 .....</b>	<b>13</b>
1. 本体設置 .....	13
2. 作業床手すりの組立て .....	14
3. 作業床の昇降 .....	16
4. 作業床落下防止ロックの設置 .....	16
5. 作業床への搭乗 .....	17
6. 本機の格納 .....	17
<b>G. 運搬方法.....</b>	<b>18</b>
1. 吊り上げ方法 .....	18
2. ウィンチによる車両への搭載 .....	18
3. 機械の固定方法 .....	19
4. リフト移動時の注意点 .....	19
<b>H. リフトの保管方法.....</b>	<b>19</b>
<b>付録 1：始業前点検表 .....</b>	<b>20</b>

## A. 安全規則

---

### 使用に不適な環境

---

次のような場所でこの機械を使用しないでください。

- 1) 堅固でない地盤の上
- 2) 滑りやすい地盤の上
- 3) 本機と積載物を支えるのに十分な強度のない地盤の上
- 4) スロープ上や凹凸のある地盤の上
- 5) 本機が不安定になりやすい何らかの危険性が存在する場所
- 6) アウトリガーを張る十分なスペースのない場所
- 7) 頭上に障害物や電線などの危険物が存在する場所
- 8) 風速 10m /秒 以上の風が吹く環境下
- 9) アウトリガーの設置床荷重に耐えうる十分な強度のない場所
- 10) 機械が腐食を起こしやすい環境下
- 11) その他不安全につながる要因の存在する環境下

機械の性能を十分に発揮させ、かつ安全に作業をするために、操作する方は本説明書に書かれていることをよく読み、完全に理解し、その指示に従うことが必要です。また、作業にあたっては次の点に注意を払ってください。

- 機械の作業前点検を行ってください。
- 本機を使用する際は必ず地上部に 1 名以上の人員を配置し、修理及び乗員の安全確保に務め、救急事態に備えてください。
- 作業エリアの状況を観察し危険がないかを確認してください。
- 機械は人を持ち上げる用途にのみ使用してください。
- 作業床の中では必ず保護帽をかぶり安全帯を装着してください。

## 1. 転倒の危険



**警告！**

**機械をクレーンや荷揚げ、エレベータの替わりに用いないでください。**

- 1) 機械が平らな地盤上に設置されていない場合や、4本のアウトリガーを正しく張り出していない、またはアウトリガーをロックピンで固定していない場合、アウトリガーのジャッキがしっかりと機械を支えていないなどの状態で作業床を上昇させないでください。
- 2) 作業床を構成する一切の部材を取り外したり、改造したりすることは禁じられています。
- 3) 作業床が上昇した状態で機械を移動することは禁じられています。作業床上昇中にアウトリガーをジャッキアップしないでください。
- 4) 作業床への規定の荷重以外に機械のどの場所にも余計な荷重がかかる事のないようにしてください。作業床から荷物がぶら下がる状態になることも危険です。
- 5) 作業床に乗った状態で外部のものを強く押したり引っ張ったりしないでください。横荷重により安定性が失われます。



- 6) 作業高さを稼ぐために作業床上に足場などを置いたりする行為は大変危険です。絶対にやめてください。
- 7) この機械は水平堅固な場所でのみ使用してください。
- 8) 作業床の上昇・下降中に水平方向、垂直方向の衝撃が加わらないように注意してください。



9) 本機を車両、コンベアなど、動く物体の上に載せて使用しないでください。

10) 風速 10m/秒 以上の環境下で作業床を上昇させないでください。旗、サインボードなど、風の影響を増大させるようなものを機械に取り付けることは安定性を失わせることになり大変危険です。



11) 本機の昇降操作を行う際に、必ず作業床に人や荷が無いことを確認してください。落下事故や、ウインチワイヤーの切断による作業床の急降下事故につながる危険があります。

12) 本機の乗車定員は 1 名、最大積載荷重は 159 kg です。絶対に定員以上の乗車、最大積載荷重を超える荷重を作業床無いに載せることはしないでください。



**警告！**

下記の最大積載荷重値を超えて積載しないでください。

型式	最大積載荷重	人数
WL15	159 KG	1 名

12) 機械の設置場所および周辺にスロープや表面が滑りやすいなどの危険性がないか、十分に注意を払ってください。

13) 機械の安全性、安定性に影響を与えるような機械的な改造はいかなるものも認められません。

## 2. 墜落の危険



**警告！**

最大積載荷重を順守し、荷重は出来る限り床全面に均等にかかるようにしてください。



- 1) 作業床の手すりの上に載ったり腰かけたりしないでください。
- 2) 操作する方が搭乗中は作業床のゲートは常に閉じているよう気を付けてください。
- 3) 作業床の床面は常に整頓されているように留意してください。
- 4) 本機に搭乗する際は必ず保護帽、安全帯を装着してください。

### 3. 感電の危険



- 1) この機械は絶縁されていません。
- 2) 電線から常に一定な距離以上離れていなければなりません。機械を設置する場所、その頭上に電線がないか、あれば十分な距離が確保されているか必ず確認してください。



**警 告！**

この機械は絶縁されていません。電線のそばでは  
絶対に使用しないでください。

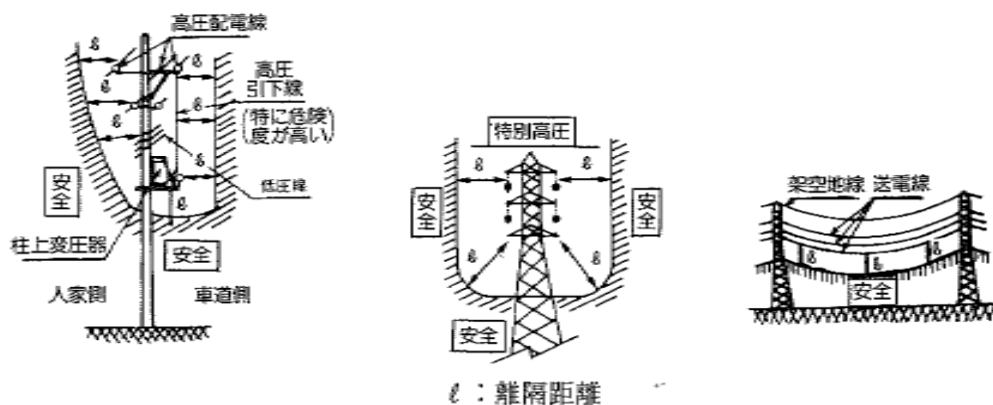
以下の表及び図は電氣的導線からの離隔距離を示したものです。電氣的導線の近くで作業する場合は、監視人を配置して作業の監視を行うとともに、以下の表に示す必要な離隔距離を保つことが必要です。

表： 送・配電線からの離隔距離

注) ※昭和 50 年 12 月 17 日基発第 759 号

電路	送電電圧 (V)	最小離隔距離 (m)	
		労働基準局長調達※	電力会社の目標値
配電線	100・200 以下	1.0 以上	2.0 以上
	6,600 以下	1.2 以上	2.0 以上
送電線	22,000 以下	2.0 以上	3.0 以上
	66,000 以下	2.2 以上	4.0 以上
	154,000 以下	4.0 以上	5.0 以上
	275,000 以下	6.4 以上	7.0 以上
	500,000 以下	10.8 以上	11.0 以上

図： 離隔距離



- 3) 風などの影響でマストや作業床が不意に電線に近付くことがありますので注意してください。
- 4) 溶接作業をする場合、機械にアースをとらないでください。

#### 4. 衝突などの危険

---



**警 告！**

作業床を降下するときは下部に人やモノがないことを確認してください。

- 1) この機械を使用するときは周囲、頭上に障害物などがないか、十分に注意してください。
- 2) 機体の制御が人力でできないような傾斜地では、この機械を移動させないでください。



#### 5. 機械的故障による危険

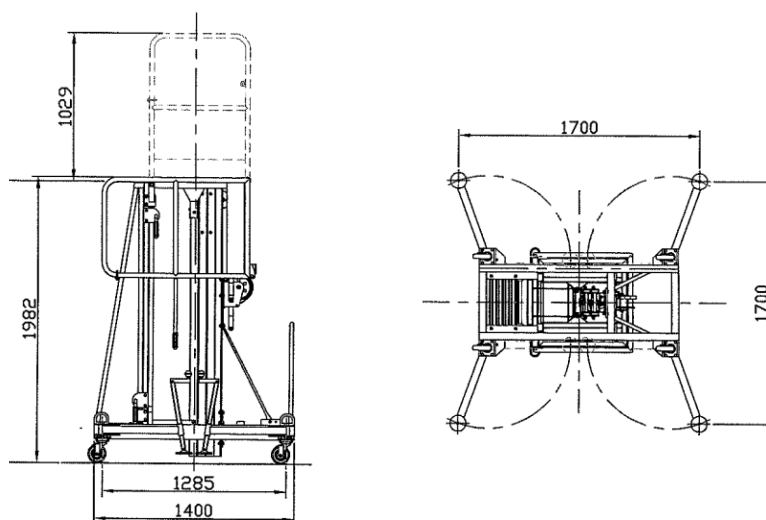
---

- 1) 機械の一部でも故障の可能性がある場合、使用はしないでください。
- 2) 注意ステッカー類は所定の位置にあることを確認してください。
- 3) 始業前点検を行ってください。
- 4) 故障中の機械はその事実がわかるようにしたうえで、修理されるまで使用されることのないよう管理してください。
- 5) メーカーの書面による承認なく機械を改造しないでください。

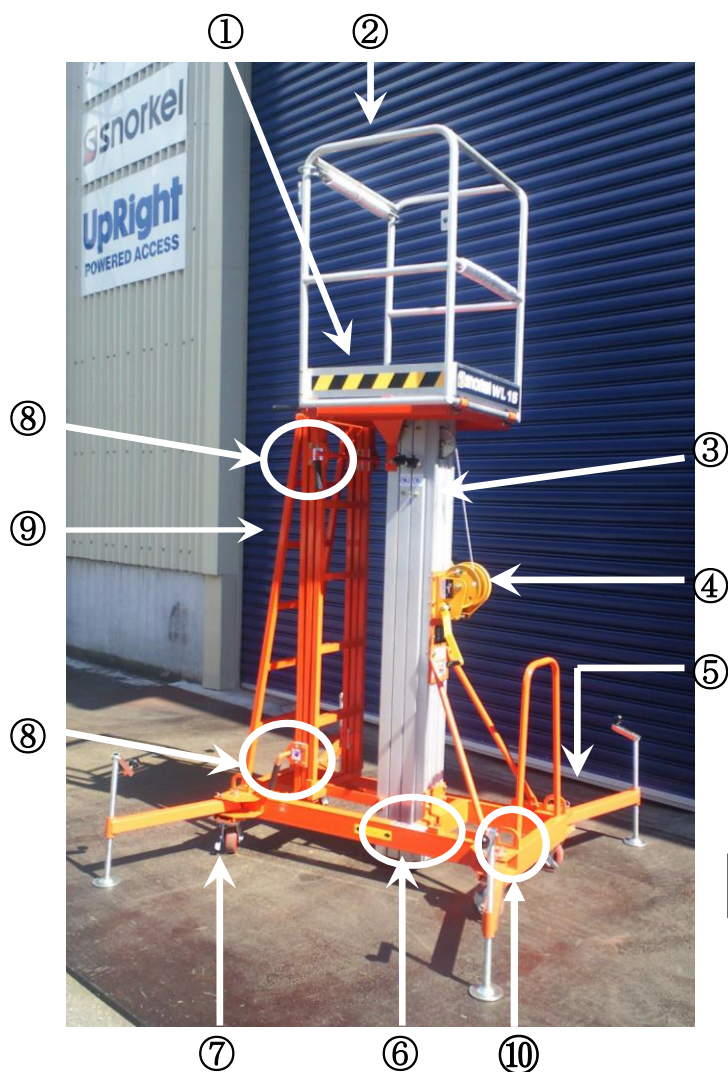


## B. 機械の仕様

型 式	W L 1 5
最大作業高	6,500mm
最大床高	4,500mm
作業床高	1,982mm ～ 4,500mm
最大積載荷重	159kg
作業床寸法	702mm×702mm
手すり高さ	1,092mm
最小高	1,982mm
奥 行	1,400mm
全 幅	760mm
アウトリガー寸法	1,700mm×1,700mm
重 量	210kg



## C. 機械各部の名称



- 1 作業床
- 2 作業床手すり
- 3 マスト
- 4 昇降用ウィンチ
- 5 アウトリガーとジャッキ
- 6 水準器
- 7 キャスター
- 8 作業床落下防止ロック  
(2ヶ所)
- 9 乗降用ハシゴ
- 10 吊上げ用フック (4ヶ所)



## D. 作業場所の点検

---

安全な作業のためにはリフトをセットする場所の環境を整備することも非常に重要です。以下の点に注意し作業場所に危険性が潜んでいないかをチェックしてください。

- 1) 機械を設置するところの周囲が清掃され乱雑でない状態にしてください。
- 2) 周囲の地盤に凸凹や陥没などがないかを見てください。
- 3) 頭上に障害物、電線などの危険がないかを見てください。
- 4) 作業エリアは安全でかつ必要な面積が確保され、部外者の侵入を防止する措置が取られていることを確認してください。
- 5) 地盤は機械それ自身と積載物の重量を支えるに十分な強度があるかを検証してください。
- 6) 屋外での作業の場合、天候が安全作業にふさわしいかを考慮してください。
- 7) 安全作業には 150 ルクスの照度が必要です。

## E. 始業前の点検

---

機械の性能を十分に発揮させ安全な作業を行うために始業前点検は重要です。必ず行ってください。巻末にある付録 1 の始業前点検表をコピーしてご活用ください。

- 1) 注意ステッカー類がはがれていたり欠落していたりしない事を確認してください。
- 2) 次のパーツ、コンポーネントに異常がないかを見てください。
  - 作業床手すりの取り付け状態
  - 手すりの固定具合
  - 2ヶ所落下防止ロックのロック具合
  - ウィンチの状態（損傷の有無、張り具合）
  - ワイヤーの状態（乱巻、ねじれなどがないか）
  - ナット、ボルト類の締め具合
  - マストの状態（ゆがみ、割れなどがないか）
  - アウトリガー、ジャッキ、フットパッドの状態
- 3) 機械の全体的外観
  - 部品の欠落、損傷
  - 腐食が発生していないか
  - 溶接部分に割れなどがないか
- 4) その他全ての部品は所定の位置に正常に取り付けられているか、ピン、ジョイントなどにも異常は発生していないか確認してください。

## F. リフトの設置、運転方法

機械の性能を十分に発揮させ、かつ安全に作業をするために、操作する方は本説明書に書かれていることをよく読み、完全に理解し、その指示に従う必要があります。また、作業にあたっては次の点に注意を払ってください。

- 機械の始業前点検を行ってください。
- 作業エリアの状況を観察し危険がないかを確認してください。
- 機械は人を持ち上げる用途にのみ使用してください。
- 作業床の中では必ず保護帽をかぶり安全帯を装着してください。



**警 告！**

機械をクレーンや荷揚げ、エレベータの替わりに用いないでください。

### 1. 本体設置

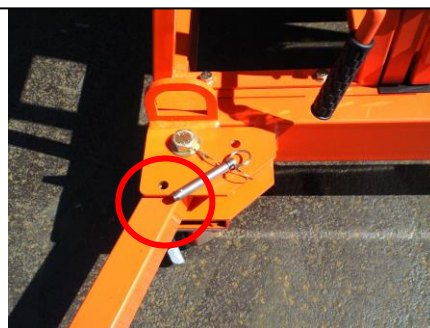
#### ➤ アウトリガーの設置

- 1) キャスター4個にそれぞれロックをかけて下さい。
- 2) 使用する場所の周囲の安全性を確認し、リフトを高所作業する場所の真下におきます。
- 3) 保管状態にアウトリガーを固定しているロックピンを抜き、アウトリガー本体を所定の位置まで張り出します。

アウトリガーの張り出し



ピン差し込み穴（アウトリガー張り出し後）



- 4) 抜いたロックピンをピン差し込み穴（右上の写真の赤く囲った部分の穴）に確実に挿入してロックし、アウトリガーの張り出しを固定してください。

- 5) ジャッキのハンドルを持って時計回りに回し、  
キャスターが少し浮く位置までジャッキアップします。
- 6) 残り 3 本のアウトリガーも同様に設置します。
- 7) 4 本のアウトリガーを設置したら、水準器を見て  
機体が水平か必ず確認し、ジャッキアップし調整  
してください。

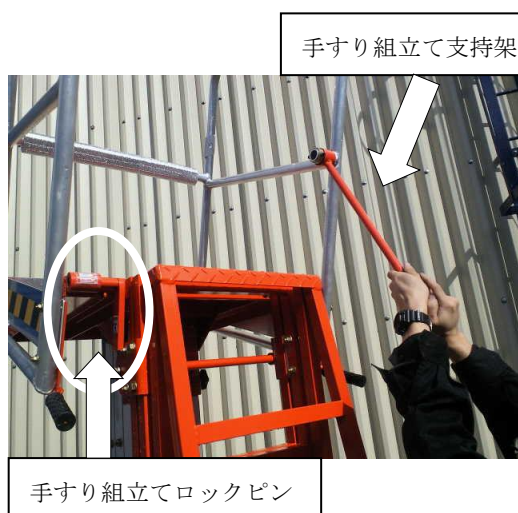


### 警告！

- ✓ 本機に搭乗する前に、機体の水準器の気泡が円の中心にあるかを目視し、機体が水平であることを必ず確認してください。
- ✓ 水平でない状態で上昇させることは大変危険です。

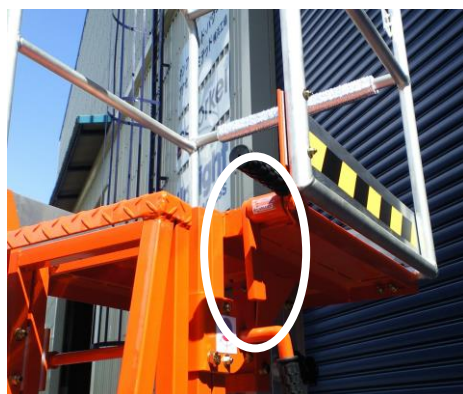
## 2. 作業床手すりの組立て

- 1) 左右 2 ヶ所の手すり組立てロックピンを外し、作業組立支持架を持って手すりを静かに起こしてください。





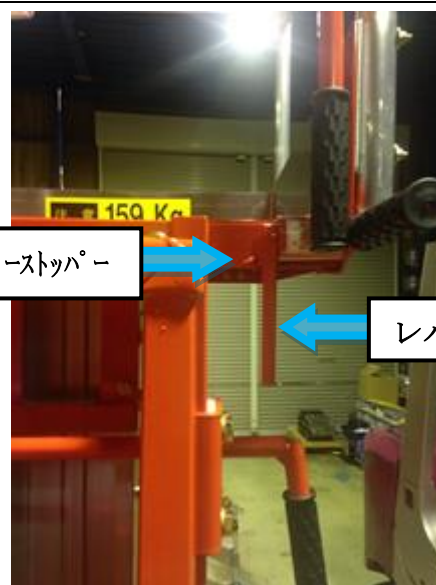
- 2) 手すりを起こしたら、手すり組立てロックピンを確実に挿入しロックしてください。



矢印方向に挿入。

警告！ 

- ✓ 右の写真のように、レバーが  
レバーストッパー（溶接されています）  
より外側に位置しているか必ず確認して  
ください。  
手すりが固定されず大変危険です。

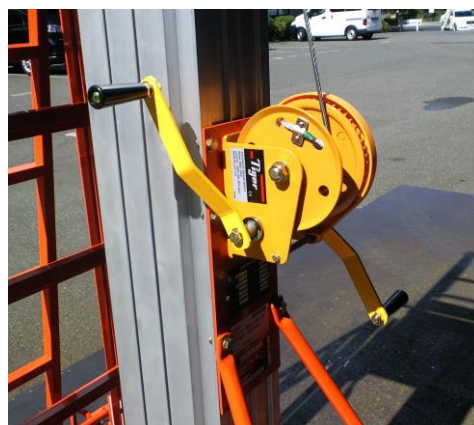


レバーストッパー

レバー

### 3. 作業床の昇降

- 1) 昇降用ウィンチを手で回し、作業床を上昇させます。
- 2) 昇降用ウィンチの正面に立ち、奥へ回すと作業床は上昇し、手前に回すと作業床は下降します。

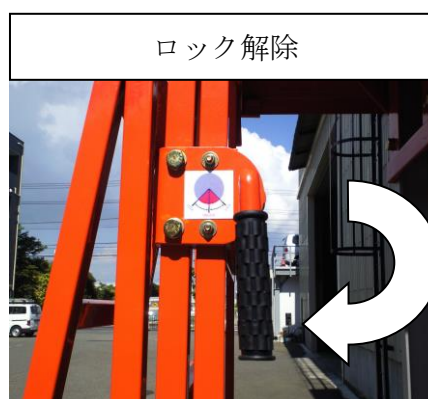


**警告！**

- ✓ 作業床に人員や荷物を載せたまま昇降操作は絶対に行わないでください。  
人および荷の落下事故、ウィンチワイヤーの過度の摩耗や切断につながる危険があります。

### 4. 作業床落下防止ロックの設置

1. 作業床を上昇させたら、作業床に搭乗前に左下の写真のように必ず作業床落下防止ロックを掛けてください。ロックは乗降用ハシゴの右側の上下2ヶ所にあります。



**警告！**

- ✓ 作業床防止ロックは、本機を使用中に作業床が急降下することを防止するための安全装置です。本機に搭乗前に必ずロックし、使用中はロックを絶対に解除しないでください。ロックをせずに使用、または使用中にロックを解除すると、死亡または重傷を伴う重大事故が発生する危険があります。



## 5. 作業床への搭乗

---

- 1) 作業床へは乗降用ハシゴを使って搭乗してください。
- 2) 作業床に搭乗後は乗降ロゲートを必ず降ろし、安全帯のフックを手すりに掛けてください。



### 警告！

- ✓ 乗員が乗ったまま本機を横へ水平移動することは絶対にしないでください。
- ✓ 本機の位置を移動する際は、乗員は必ず一度地上まで降り、作業床を完全に降下させてからアウトリガージャッキを解除し本機を移動させてください。

## 6. 本機の格納

---

本機を格納する際は、設置を逆の手順で格納してください。



### 注意！

- ✓ 作業床を降下させる際には、昇降用ウィンチを回す前に作業床落下防止ロックを必ず解除してください。解除しないと昇降用ウィンチを回しても作業床は降下しません。  
(作業床防止ロックは上下の2ヶ所にあります。両方解除してください。)

## G. 運搬方法

本機は軽量・コンパクトに設計されていますが、人力でのハンドリングや吊上げなどでの搬送時には特別な注意と安全性確保の措置が必要です。運送時の大前提として出来る限り複数人数での作業を心がけてください。

- 運送時、固定されていない部材、パーツには結束などの措置を施してください。
- 車両に搭載時は荷台床面の強度が機械の重量に対して十分であるかを考える必要があります。特にあおり部分の強度に注意してください。
- 荷台への積載時に車両が動き出さぬよう注意してください。
- 搭載したら機械がしっかりと荷台にラッシングされているか確認をしてください。

### 1. 吊り上げ方法

- 1) 機械を吊上げる際は、右写真の吊上げ用フックを使ってください。
- 2) 固定されていない部材、パーツは結束するなど、運送中に脱落などないような処置を施してください。
- 3) 吊上げ作業に何人の作業員が必要かは経験や環境などを考慮に入れながら慎重に決定される必要があります。安全性の余地を十分に取って然るべく決定してください。



吊上げ用フック（4ヶ所）

### 2. ウィンチによる車両への搭載

- 1) リフトを完全に下降・格納してください。
- 2) 固定されていない部材、パーツを結束します。
- 3) ウィンチワイヤーなどの先端を吊上げ用フックに取り付けてください。
- 4) 十分に注意しながら車両上に積載し機械をしっかりと荷台にラッシングしてください。

### 3. 機械の固定方法

---

機械の重量を考慮し十分な能力のある器具を利用して機械を荷台に固定します。

### 4. リフト移動時の注意点

---

- 1) 移動する前にその経路を良く調べ、軟弱地盤、凸凹した地盤、穴のあいているところ、路肩などで機械が転倒しないよう十分に注意してください。
- 2) やむを得ずスロープ上で機械を移動する場合は斜度が5度以下のスロープでのみ行うようにしてください。それ以上のスロープ上での移動は危険ですので避けてください。
- 3) 出来る限り機械の横方向に立って移動を行い、万が一機械が転倒しそうな場合でも決して機械を支えようとしないでください。
- 4) 狭い場所や暗い場所を移動させる場合には周囲に十分注意しながら行ってください。

### H. リフトの保管方法

---

- 1) 屋内の堅固で水平な場所、部外者の目にさらされない安全な場所を選んで保管してください。
- 2) 機械が動かないように輪留めをかましてください。



## 付録 1：始業前点検表

No.	検査内容	検査結果 良好：✓ 不良：×
1	取扱説明書は備えられているか	
2	注意ステッカーに不備はないか	
3	各部ナット、ボルト類の締まり具合はどうか	
4	キャスターに異常はないか (取付状態、損傷、溶接部、ボルト類、ガタ)	
5	アウトリガー、ジャッキ、フットパッドに異常はないか (取付状態、損傷、ボルト類、ガタ)	
6	作業床、手すり、乗込ロケットに異常はないか (損傷、溶接部、ボルト類)	
7	マスト部分に異常はないか (取付状態、損傷、溶接部、ボルト類)	
8	昇降用ウィンチ、ワイヤーに異常はないか ※作業床を最大まで上げ、または降ろし確認してください。 (ガタ、損傷、ゆるみ、ワイヤーの乱巻、ねじれ)	
9	2ヶ所の落下防止ロックはしっかりロックがかかるか	
10	機械全体に部品の欠落はないか 腐食、溶接部分の異常はないか	

MEMO

MEMO

MEMO

## 点検のご案内

---

WL15 は法律上点検の義務はございません。しかし、弊社では製品の性能を本来の状態に保つことにより、安心して高所作業にあたってくださいよう、定期的な点検をお勧めしております。点検業務は、専門のサービスマンが現地へお伺いし、本体の動作チェック、走行装置、昇降装置のチェックを中心に各部の調整・整備を行います。

※料金等の詳しい内容は、下記問い合わせ先までお尋ねください

## お問い合わせ先

---



### エイハン・ジャパン株式会社

本社

東京都港区芝浦 3-15-2 山本ビル 3F

TEL : 03-5765-6841

関西支店

大阪府摂津市鳥飼新町 1-14-3

TEL : 072-650-1950

インターネット : <http://www.snorkel.jp.com>